

ヒメサユリ (学名: *Lilium ruberum*)

[ユリ科 ユリ属]



ヒメサユリの分布域は狭く、東北地方南部の内陸を中心とした多雪地帯だけに限られます。そのため、環境省のレッドリスト（絶滅の恐れのある生物種の一覧）には、準絶滅危惧種として登録されています。6月になると、只見町ではヒメサユリをあちこちで目にします。たとえば、只見駅の裏の百合平やその隣のスキー場、要害山や蒲生岳の登山道沿い、柴倉山中腹の鉄塔周辺の刈り払い地、浅草岳の雪田草原から鬼が面山の切り立った尾根道、雪食

地形の岩肌などで見ることができます。浅草岳山頂や雪食地形の岩肌など自然度の高いところがヒメサユリの本来の生育地で、刈り払い地や百合平など人里に近く、また、人の手が加わったところは二次的な生育地と考えられます。只見町は山が多く本来の生育地が多く、その合間に二次的な生育地の人里があるというように景観が多様です。そのため本来の生育地がヒメサユリの種子源となり、そこから散布された種子が人里に届き、定着するのでしょう。地面に届いた種子は、翌年、小さな球根になり地中で過ごし、その次の年によろしく葉を一枚だけ地上に出します。ゆっくり成長するために、栽培環境下でも種子から開花までに5年程度かかります。

昨年（2014年）、百合平やスキー場の雪どけは4月末、そしてヒメサユリの開花は6月上旬に始まりました。浅草岳山頂周辺は7月上旬に雪どけし、8月上旬に開花しました。ヒメサユリは雪どけからひと月程度で開花します。雪どけから短期間のうちに芽生えて開花できるのは、前年のうちに花芽を形成しているからです。雪が多く地形が複雑な只見町は、雪の消える時期が場所ごとに違います。そのため、ヒメサユリの開花を長期間にわたって見ることができるのです。

ブナセンター講座

「奥会津の地質にみる日本列島の成り立ち」

日 時：6月20日(土)

自然観察会

「只見の地質を観察しよう」

日 時：6月21日(日)

火山学と地質学を専門とする山元孝広先生(産総研)をお招きし、
“只見の地面を感じる”講座と観察会を開催します。

詳しくは、
只見町ブナセンター
までお問い合わせ
ください

企画展示

「只見町のブナの森 -ブナの生態から利用まで-」

期 間：6月27日(土)から

※この広報紙は再生紙を使用しています



※環境にやさしい大豆油インキを使用しています